

1 教育目標（目指す児童像含む）

社会に貢献できるよう、心身ともに健康で、豊かな人間性をもった実践力のある児童を育成する。

- ・ 健康で たくましい子（体）
- ・ よく考え やりぬく子（知）
- ・ 正しく 思いやりのある子（徳）
- ・ ふるさとを愛する子（徳）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

「人間尊重の教育」を基盤として、全職員が自らの使命を自覚し教育活動の充実に努めるとともに、家庭・地域と協働した地域とともにある学校づくりを推進し、学校教育目標の具現化を目指す。

目指す学校像 ・安全・安心な学校 ・学力向上に取り組む学校 ・地域とともにある学校

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

「学習指導要領」「栃木県教育振興基本計画」「第二次宇都宮市学校教育推進計画」等の趣旨に基づき、児童の実態を踏まえるとともに、地域の特色を有効に活用し、学校教育目標の具現化を目指す。

- （1）○「健康でたくましい子」の育成に向け、基本的な生活習慣を身に付ける指導と主体的に健康な体づくりができる教育活動を推進する。
- （2）○「正しく思いやりのある子」の育成に向け、道徳科の充実に図り、個々のよさを伸ばし、かかわることをとおして認め合い、豊かな人間関係を築く教育活動を推進する。
- （3）○「よく考えやりぬく子」の育成に向け、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図り、学びに向かう集団づくりをとおして、学習意欲の向上を目指した学習活動を推進する。
- （4）「ふるさとを愛する子」の育成に向け、地域ボランティアの協力を得た体験活動や、宇都宮学を中心とした学習活動を推進する。また、本地域ならではの災害等を正しく理解し、自ら危険を予測して回避できる力を身に付ける活動の充実に図る。
- （5）「地域とともにある学校づくり」に向けて、社会に開かれた教育課程の視点に立ち、地域の教育力を最大限に生かし、家庭及び地域社会との連携を一層深める。また、積極的な情報発信に加え、地域協議会を効果的に活用する。
- （6）教職員が健康で教育活動へのやりがいをもって勤務し、質の高い教育が行えるよう、「働き方改革」の視点に立ち、職場環境並びに業務改善の取組を推進する。
- （7）教職員は、自己研鑽に努め、児童一人一人を大切にしたい教育活動を展開し、誰からも信頼される教職員として職務を遂行する。

【瑞穂野地域学校園教育ビジョン】

9年間の連続した学びの中で、生きる力（確かな学力、健やかな体、豊かな人間性、社会性）を育てる小中一貫教育

4 教育課程編成の方針

- （1）編成にあたっては、関係法令、小学校学習指導要領、県教育委員会の指導指針、宇都宮市学校教育スタンダード、学校経営の方針等に基づき、学校及び児童の実態を十分に踏まえ、家庭・地域との連携・協働により、「社会に開かれた教育課程」を実現する。
- （2）学習指導要領の内容を十分に理解し、人格の完成を目指し、個性の伸長と豊かな人間関係づくり、基礎的・基本的な学習内容の定着と活用力の育成を図るとともに、教科横断的な視点で内容の充実に図り、知・徳・体にわたる「生きる力」を育む教育課程を編成する。
- （3）児童一人一人の生きる力を育むために、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開し、教師と児童が一体となった創造的な活動に取り組む。また、道徳科の授業を要として、学校教育活動全体、並びに家庭・地域における豊かな体験をとおして、児童の道徳性の育成を図り、道徳的実践力が養われるよう教育課程を編成する。
- （4）小中一貫教育カリキュラムを展開していく中で、地域学校園の各学校と連携を図り、小中一貫教育の趣旨を十分に踏まえた教育課程を編成する。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学 校 運 営】

地域や家庭と連携し、児童も教職員も生き生きと主体的に活動できる、安全・安心な学校づくりの推進

○安全な学校づくり

○児童が安心して楽しく通える学校づくり

○学力の向上を目指す学校づくり

○勤務時間並びに業務改善を意識した働き方の推進によるゆとりのある学校づくり

【学 習 指 導】

○「自分の思いや考えをつなげ、深め、心豊かに生きる児童の育成」

【児 童 生 徒 指 導】

○「一人一人の特性を生かし、伸ばし合える、学びに向かう集団づくり」

【健康（体力・保健・食・安全）】

○「自己の健康・体力に関心を持ち、健康や安全についての自己管理能力を身に付け主体的に行動できる児童の育成」

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

※令和3年度も、学校生活全般にわたって新型コロナウイルス感染症拡大防止に十分配慮しながら教育活動を推進する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目指す学校の姿	A 1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、授業中、話をしっかりと聞いたり発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる。」 ⇒児童・保護者・教職員の肯定的回答 90%以上	・授業や「トークタイム」の実践を通して、「話を聞く」「分かりやすく伝える」態度や技能が高まるように指導する。また、「伝え合い」「学び合い」の充実により、各児童の思考を深め、確実な学力を育む。 ○国語・算数を中心に基礎的・基本的な内容の定着を図る。また、その効果的な指導方法、児童の学力向上に向けての支援の手立てを工夫する。 ・ICT機器を活用して自分の考えをまとめたり他者と交流して深めたりする時間を確保し、主体的・対話的で深い学びの充実を目指す。	B	【達成状況】 児童 96.3% 保護者 94.3% 教職員 100.0% ・ いずれも、目標を上回った。 【次年度の方針】 ・ 話合いの技能や思考力の向上を目指した取組を継続するとともに、基礎基本の確実な定着に努めながら学力向上を目指す。
	A 2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 ⇒児童・保護者・教職員・地域住民の肯定的回答 90%以上	・朝の会、帰りの会をはじめ様々な機会を捉えて、他者への優しい行いを称賛する。 ・思いやりに欠けた言動が見られた場合には、その都度相手の立場から考えてみるよう促すなど、丁寧に指導する。 ・人権教育年間指導計画に基づき、学校全体の教育活動において人権教育を推進する。 ○遊びの場や清掃の時間をなかよし班活動（異学年交流の場）として活用し、相手の立場を理解して思いやる心を育てる。	B	【達成状況】 児童 97.1% 保護者 98.6% 教職員 93.8% 地域住民 100.0% ・ いずれも、目標を上回った。 【次年度の方針】 ・ 他者に対する優しい行いを称賛することを継続して行うと共に、なかよし班活動など縦割りでの異学年交流を充実させていく。

A 3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、きまりやマナーを守って生活している。」 ⇒児童・保護者・教職員・地域住民の肯定的回答90%以上	・生活目標の提示の仕方を工夫すると共に、職員の生活当番活動を充実させ、適切な場所で適切な機会に指導を行い、児童がきまりやマナーを守って生活しようとする意識を醸成する。 ・ふりかえりタイムの設定により、自分自身を振り返り、落ち着いた生活を送ろうとする態度を育てる。 ○チャイムの有無にかかわらず、授業開始時刻や一斉下校の時刻など、時間を守ることの指導を徹底する。 ・“マナー3か条”「①先にあいさつをしましょう ②廊下や階段は静かに右側を歩きましょう ③友達は『さん』付けで呼びましょう」を徹底し、児童自身が「マナーを守っている」ことを実感できるようにする。また、「脱いだ靴を下駄箱にきちんと整頓する習慣」の会得を徹底し、自分自身の言動を振り返ったり他者のことを考えて行動したりできる児童の育成を目指す。	A	【達成状況】 <table><tr><td>児童</td><td>91.2%</td></tr><tr><td>保護者</td><td>95.9%</td></tr><tr><td>教職員</td><td>93.8%</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>100.0%</td></tr></table> ・ いずれも、目標を上回った。 【次年度の方針】 ・ 自分たちの生活面での課題や解決の方策を児童自身が考えられるよう、プロジェクト活動の一環として、児童が生活目標を考えて発信する機会を設ける。	児童	91.2%	保護者	95.9%	教職員	93.8%	地域住民	100.0%
児童	91.2%										
保護者	95.9%										
教職員	93.8%										
地域住民	100.0%										
A 4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」 ⇒児童・教職員・保護者・地域住民の肯定的回答90%以上	○児童会プロジェクト活動による毎朝のあいさつ運動、下校時のあいさつ、児童集会での呼びかけ等により、自ら進んであいさつしようとする態度を育てる。 ・学級での指導、集会時や日常の指導などをおして、全校体制であいさつを重視する環境づくりを進める。 ・教職員から進んで丁寧なあいさつをすることで範を示し、教職員、保護者、来客に対して自分からあいさつできる児童を育成する。また、児童同士でも互いに気持ちのよいあいさつができるよう、あいさつ強化週間を定期的に設定し、児童の意識を向上させる。	B	【達成状況】 <table><tr><td>児童</td><td>94.1%</td></tr><tr><td>保護者</td><td>93.3%</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100.0%</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>100.0%</td></tr></table> ・ いずれも、目標を上回った。 【次年度の方針】 ・ あいさつの意義を確認しながらあいさつ週間を定期的に設け、進んで自分からあいさつしようとする意識を児童に醸成する。上級生が模範となるよう、あいさつプロジェクトを中心に継続して指導していく。	児童	94.1%	保護者	93.3%	教職員	100.0%	地域住民	100.0%
児童	94.1%										
保護者	93.3%										
教職員	100.0%										
地域住民	100.0%										
A 5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、夢や目標に向かって、あきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 ⇒児童・保護者・教職員の肯定的回答90%以上	・家庭学習の習慣化の取組と連携を図ったり、各種検定等を継続的・計画的に位置付けたりすることを通して、児童が「自ら目標を設定し、それに向かって努力することの大切さ」に気付けるよう支援していく。 ・道徳の授業で、目標をもって粘り強く取り組むことの大切さに気付かせるとともに、実践に向けた意欲を高める。 ・児童一人一人のよさを認め励ます教育の充実を図る。また、自己の成長を振り返り実感できる場や児童が相互に認め合う場を率先して設定し、自尊感情を育む。	B	【達成状況】 <table><tr><td>児童</td><td>93.4%</td></tr><tr><td>保護者</td><td>84.1%</td></tr><tr><td>教職員</td><td>93.8%</td></tr></table> ・ 保護者の回答が、目標を下回った。 【次年度の方針】 ・ 懇談会や行事等において、保護者に、様々な場面で物事に粘り強く取り組んでいる児童の姿を見てもらう機会を設けたり、学校での様子が具体的に伝わるよう発信方法を工夫したりする。	児童	93.4%	保護者	84.1%	教職員	93.8%		
児童	93.4%										
保護者	84.1%										
教職員	93.8%										

A 6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」 ⇒児童・教職員・保護者の肯定的回答90%以上	・「新しい生活様式」の確実な実践指導及び最新の感染症対策の方策を徹底し、感染症拡大防止に努める。 ・安全教育を徹底することにより、けがによる保健室利用を減少させる。 ・日常生活や教科指導の中で、自然災害（雷、竜巻、洪水等）について、学年の発達の段階に応じて指導し、安全に行動できるようにする。 ・避難訓練、交通安全教室などの定期的な実施、事前指導・事後指導の充実をとおして、児童が安全な学校生活を送ろうとする意識を高め、日常生活における自らの安全確保に必要な各自の判断力を確実に身に付けさせていく。 ・情報交換会や定期的な交流、毎朝のあいさつ運動や立哨活動などの機会を活用し、スクールガードチーフ及び見守り隊との連携を深め、児童の登下校の状況の把握に努めるとともに、児童が主体的に通学時の安全について考え行動する機会を設け、安全意識の高揚を図る。 ・体育関係各種検定カードの活用や業間のスポーツタイムの充実により、自ら体力向上に取り組む児童の育成を図る。	B	【達成状況】 児童 96.3% 保護者 91.8% 教職員 100.0% ・ いずれも、目標を上回った。 【次年度の方針】 ・ 安全教育を充実させることで、校内におけるけがの発生件数の減少に努める。 ・ 元気アップ教育を中心として、健康安全に関わる自己管理能力を身に付けられるよう、指導をさらに工夫する。
A 7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、夢や目標に向かって、あきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 ⇒児童・保護者の肯定的回答90%以上	・道徳の授業で年間を通して「個性の伸長」等について指導し、児童が自らのよさを自覚して夢や目標の実現に向けて取り組もうとする意欲を高める。また、宮・未来キャリア教育年間指導計画に基づき、キャリア・パスポートの有効活用を図って、望ましい勤労観・職業観を意図的・計画的に育む。 ・外部機関や企業との連携を図った体験的な学習を通して視野を広げ、社会への関心を高めたり社会との関係を学んだりする機会を確保し、将来の社会人としての基盤づくりに努める。	B	【達成状況】 児童 93.4% 保護者 84.1% ・ 保護者の回答が、目標を下回った。 【次年度の方針】 ・ 今年度は、外部機関や企業との連携を図った体験的な学習の機会をもつことが困難であった。次年度は、感染症等の状況を見ながら、実施に向けて工夫していく。
A 8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答90%以上	・校内研修等により教師自身の指導力を向上させ、英語によるコミュニケーションの楽しさを児童が実感できる授業の構築に努める。 ・外国語活動・外国語科の授業はもちろん、授業以外の時間にも児童がALTと交流できる場を設定する。言語や文化について体験的に児童の理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。	B	【達成状況】 児童 94.9% 教職員 100.0% ・ いずれも、目標を上回った。 【次年度の方針】 ・ 今年度の取組を継続し、児童の英語によるコミュニケーション力の向上を図る。

A9 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、宇都宮の良さを知っている。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上・保護者の肯定的回答 80%以上	・生活科、3、4年生での社会科、5、6年生での総合的な学習の時間の授業（「宇都宮学」）や掲示物等を通じて、宇都宮市の伝統・文化・産業等に対する児童の理解を深め、郷土愛を育む。	A 【達成状況】 児童 92.6% 保護者 66.1% ・児童と比較して、保護者が目標を大きく下回った。 【次年度の方針】 ・宇都宮について親子で話し合う場を確保するため、10月に「うつのみやウィーク（仮称）」を設定し、家庭で互いの知識を共有したり教え合ったりできる機会を保障する。
A10 児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、パソコンや図書等を学習に活用している。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 85%以上	・学校や家庭における学習で、児童がChromebookを文具として活用できるよう、発達段階に応じた適切な指導を行う。また、適切・安全に使いこなすことができるよう、児童にネットリテラシーなどの情報活用能力を育成する。 ・市立図書館とも連携し、授業内容との関連に配慮した教育図書の整備充実等、学校図書館の環境整備に努める。市立図書館の本を利用した調べ学習への取組などを、図書館だより等で保護者に知らせる。	B 【達成状況】 児童 95.6% 教職員 100.0% ・いずれも、目標を上回った。 【次年度の方針】 ・今後も、児童がパソコンや図書等を学習に活用する様子を学校だよりやHPで公表し、取組状況について周知を図る。また、次年度から本格的に導入するAIDリルを活用し、基礎的な学力の確実な定着を目指す。
A11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、誰に対しても思いやりの心をもって優しく接している。」 ⇒児童・保護者・教職員・地域住民の肯定的回答 90%以上	・体験活動と関連を図った道徳科の授業を実施し、生命や人権を尊重する心や、人を思いやる心などを涵養する。 ・人権教育年間指導計画に基づき、全教育活動を通して人権教育を計画的に実施する。 ・総合的な学習の時間や各教科の授業等において、ICT機器の活用等、方法を工夫しながら地域の方や高齢者と交流する機会を設け、感謝や相手を思いやる心を育む。	B 【達成状況】 児童 97.1% 保護者 98.6% 教職員 93.8% 地域住民 100.0% ・いずれも、目標を上回った。 【次年度の方針】 ・各教科の学習や学校行事、日常生活などに関連付けながら、引き続き人権教育を推進する。
A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、環境問題や防災等の「持続可能な社会」について、関心をもっている。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 85%以上	・社会科・理科・生活科・総合的な学習の時間等の授業を通して、地域や国土の環境や防災への関心を高め、環境と調和しながら生きる意識や態度を育成する。 ・「持続可能な開発目標（SDGs）」を意識したぼくら活動、プロジェクト活動の充実を図り、牛乳パックのリサイクルやプラスチックごみの分別、環境美化への呼びかけなどを継続して行う。 ・教室移動の際の消灯、不要な水道の使用防止等、節電・節水などについて周知徹底を図る。 ・東日本大震災をはじめとした過去の災害の具体事例から学ぶ教材を工夫し、防災教育の充実を図る。	B 【達成状況】 児童 88.2% 教職員 93.8% ・いずれも、目標を上回った。 【次年度の方針】 ・感染症拡大防止のために牛乳パックのリサイクルは中止しているが、状況が改善したら再開する。 ・学校だけでなく家庭とも連携しながら、「持続可能な社会」の実現に向け、自分にもできることを進んで考えていこうとする意欲を児童に育む。

目 指 す 学 校 の 姿	A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	・特別支援教育コーディネーターや児童指導主任を中心に、全校で特別な支援が必要な児童に関する共通理解を図り、一人一人のニーズを踏まえた支援を組織的に行う。 ・通常の学級においても、必要に応じて個別の支援計画を作成し、それに基づく合理的な配慮を伴う指導に努める。 ・校内研修や職員会議等の際に、児童指導上の課題等を共有する場を確実に設け、適切な指導及び必要な支援の在り方について、教職員の理解を深める。	B	【達成状況】 教職員 100.0% ・ 目標を上回った。 【次年度の方針】 ・ 引き続き、特別な支援を要する児童の実態に応じ、組織的対応を行う。
	A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」 ⇒児童・保護者の肯定的回答90%以上	・「市及び本校いじめ防止基本方針」に基づき、いじめは絶対許されないことという児童自身の規範意識の向上や思いやりの心の育成に努める。また、基本方針を学校ホームページで公開するとともに、学校だより等を活用するなどして周知を図る。 ・いじめゼロ強調月間の取組やプロジェクト活動によるいじめ根絶に向けた児童の活動等を通して、いじめの未然防止・早期発見・適切な対応に努める。 ・いじめの原因の一つともなり得るSNSの利用や情報モラル等を指導するとともに、適切な使い方について保護者と共通理解を図る場を設定する。	B	【達成状況】 児童 98.5% 保護者 86.2% ・ 保護者の回答が、目標を下回った。 【次年度の方針】 ・ 引き続き、児童自身の規範意識の向上努めながら、いじめ防止に係る学校での取組について、学校だよりや学年だよりを通して継続して発信していく。 ・ 日頃から学校全体で児童を観察し、児童に不安な様子が見られた際には、担任以外の教職員でも直ちに声掛けをするなどして、問題の早期発見・早期解決を目指す。
	A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、一人一人を大切にし、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	・互いに存在を認め合う人間関係づくりを目指し、各自が自己肯定感を高められるよう、教師による日常的な声掛けや、朝の会・帰りの会等での児童が互いに称賛し合う場の設定を行う。それぞれの学級での取組を、学級懇談会や学年だよりで周知する。 ・教育相談、アンケート、Q-U調査等の結果を活用し、不適応傾向・問題行動の早期発見と不登校の兆候や傾向のある児童に係る校内での情報共有を図る。 ・「共遊の時間」を継続実施し、児童同士及び教職員と児童のより良い関係づくりに努める。	B	【達成状況】 児童 97.8% ・ 目標を上回った。 【次年度の方針】 ・ 引き続き、日常的な声掛けや人間関係づくりを教職員全員が心がけ、取組を継続していく。

A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	・特別な支援を必要とする児童の特性による学習上・生活上の困難の理解に努め、必要に応じて特別支援教育コーディネーター・養護教諭と連携し、支援に係る適切な判断や支援を行える体制を整えておく。また、スクールカウンセラーとの更なる連携強化に努め、専門的見地に立った適切な指導への助言を得られるようにする。 ・児童が国籍や文化の違い等を認め合い尊重し合いながら生活できるよう、他国の多様な文化に触れる機会を設定し、自国と他国の隔てなくそれぞれを尊重しようとする態度を育成する。	B	【達成状況】 教職員 100.0% ・ 目標を上回った。 【次年度の方針】 ・ 全教職員が特別支援教育の視点に立ち、特別支援コーディネーターを中心に、スクールカウンセラーの指導・助言も仰ぎながら、組織的対応を心がける。
A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、活気があり、明るく生き生きとした雰囲気である。」 ⇒児童・保護者・教職員・地域住民の肯定的回答 90%以上	・キャリア・パスポートを活用して自他のよさや成長を認め合う場を設け、児童相互のより良い関係を構築する。 ・「なかよしタイム」及び「共遊の時間」を継続実施し、児童同士・教師と児童間の豊かな人間関係の構築に努める。また、日常生活や瑞南ふれあい祭りなど、あらゆる教育活動の場面で、教師と保護者や地域の人とがふれあう機会を設定する。 ・児童会活動の活発化を図り、児童が主体的に取り組む場を設け、活動の在り方の工夫改善を図る。	B	【達成状況】 児童 93.4% 保護者 95.9% 教職員 100.0% 地域住民 100.0% ・ いずれも、目標を上回った。 【次年度の方針】 ・ 小規模校の特色を生かし、児童を核にして教職員・保護者・地域が交流を深め、豊かな人間関係の構築に努める。
A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。」 ⇒児童・保護者の肯定的回答90%以上	・授業のねらいの明確化とまとめ・振り返りの実施により、児童が見通しをもって取り組み、学んだことや自分の成長を実感できる授業を行う。 ・児童の実態を踏まえて、教材を工夫するなど、分かる授業の実践に努める。 ・学校課題を軸とした職員研修を実施し、教職員同士で学び合い、各自の授業力向上を図る。 ・学級担任とかがやきルーム指導員や学力向上担当教員の連携を密にし、より一層効果的な実施方法を工夫して少人数指導の充実を図る。 ・習熟度別学習やT・Tなどの少人数指導を充実させ、児童の実態に合わせて、各自の学力をさらに伸ばす指導や取組について工夫していく。	B	【達成状況】 児童 97.8% 保護者 90.2% ・ いずれも、目標を上回った。 【次年度の方針】 ・ 児童がより一層「学ぶ楽しさ」を味わえる授業の構築を実現するため、各自が研鑽を積んだり校内研修を充実させたりして、個に応じた指導支援の充実及び教職員の授業力の一層の向上を目指す。

A 19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「学校に関わる教職員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	・教職員は、話を聴く、声をかける、称賛する、指導する、家庭と連携するなど、児童・保護者等と積極的に関わる。 ・全教職員が学校経営への参画意識をもってチームとして取り組めるよう、情報交換の時間を確保し、共通課題を設定し解決に取り組む。 ・教職員同士の打合せの時間を確保したり報・連・相を徹底したりしてコミュニケーションを十分図れるようにし、教職員同士が協力し合い、協働して教育活動の推進に努める。	B	【達成状況】 教職員 100.0% ・目標を上回った。 【次年度の方針】 ・本校は小規模校のため、全教職員で協力し合おうとする意識が高い。今後も密に情報を共有しながら、協働的な雰囲気を高めていく。
A 20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	・全教職員が児童と向き合う時間の確保に努めるために、働き方改革の視点に立って、業務の効率的な実施・計画的な処理を意識する。 ・学校行事の精選、校務分掌の見直し等により、業務量の縮減を目指す。 ・業務内容の可視化を図り、小チームで計画的に対応できる仕組みを構築するなど、職員間の連携を強化する。 ・ミライムによる出退勤の記録を蓄積することにより、適正な勤務時間の管理についての教職員自身の意識を高める。	B	【達成状況】 教職員 87.5% ・小規模校の常として、必然的に教職員一人当たりの業務量が多い。そのため、負担感を感じる教職員もあり、目標を下回った。 【次年度の方針】 ・「業務の効率化」を常に念頭に据え、随時現状を分析し、課題があれば学校全体で直ちに改善するシステムを整える。同時に、今後も、校務分掌にかかわらず、周囲の教職員と協働して業務の迅速な遂行に取り組んでいく。
A 21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、小学校と中学校が連携した「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。」 ⇒児童・保護者・教職員の肯定的回答 85%以上	○地域学校園分科会ごとに今年度の基本方針を受けた取組の充実を図る。計画的な分科会の実施により、地域学校園内の情報交換を密にして共通理解を図り、地域の課題に即した各分科会の取組の充実を図ることで、小中の相互理解を深める。 ○児童や保護者にも広く「小中一貫教育」の取組と意義を周知するため、広報活動を積極的に行う。	B	【達成状況】 児童 70.6% 保護者 83.3% 教職員 100.0% ・コロナ禍で小中一貫教育の取組に制限があることも影響したのか、児童・保護者ともに肯定的回答が目標を下回った。 【次年度の方針】 ・小中一貫の取組を実施していても、児童や保護者にその連携が理解されていないことも多いようなので、学校だより・HP等を活用し、周知していく。
A 22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、家庭・地域・企業と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 ⇒保護者・地域の肯定的回答 90%以上	・地域協議会との連携を更に強化し、一層の教育的効果が期待できる学校行事や授業への協力を地域へ依頼する。 ・街の先生や地域ボランティアの方々を学校行事や授業に積極的に活用することをおして地域の教育力の活用を図るとともに、学校と地域が協働して児童の健全育成に取り組める環境づくりに努める。 ・地域協議会との連携を工夫し、学校行事や授業に地域の教育力を積極的に活用できるよう、更なる情報収集に努める。	B	【達成状況】 保護者 92.5% 地域住民 88.9% ・コロナ禍で、従来は地域とかかわりの深かった取組を実施することが難しかったため、地域住民の肯定的回答が目標に達しなかった。 【次年度の方針】 ・感染症等の状況に応じながらも可能な限り地域と連携を図り、特色ある教育活動を展開することを目指していく。

A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 学校は、家庭・地域・企業と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 ⇒保護者・地域の肯定的回答 85%以上	・企業等による出前講座、校外での体験学習等、校外の各種機関の専門知識、施設・設備を活用した多様な学習を位置付ける。 ・ICT機器を活用し、オンラインによる出前講座等、新しい交流の在り方の開発に努め、各種機関の専門知識や技術等を活用した多様な学習を実践する。 ・地域協議会と連携し、学校経営方針への保護者・地域住民の理解を深め、意見や学校関係者評価の結果を反映させて学校経営の改善に努める。	B	【達成状況】 保護者 92.5% 地域住民 88.9% ・ いずれも、目標を上回った。 【次年度の方針】 ・ 家庭や地域とは、学校だよりやHP、連絡帳、電話、懇談等によって可能な限り情報交換を密にし、その結果を基に学校教育活動の充実に努める。
A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 ⇒保護者・地域住民の肯定的回答 90%以上	・新型コロナウイルス感染症対策の徹底、熱中症予防対策、インフルエンザ蔓延予防対策など、時期に応じて適切な保健指導管理に努める。 ・定期的に学校施設の安全点検を実施し、危険箇所については迅速な改善や修繕に努める。 ・危機管理マニュアルの見直しや改善を日常的に行い、避難訓練や引き渡し訓練等を通して、火事、地震、竜巻、洪水、不審者侵入等の不測の事態への備えを万全にし、児童自身が災害に立ち向かう態度や防災に関する基礎知識を確実に身に付けさせ、児童自身の危機回避能力を育成する。また、それらの取組を学校だよりや保健だより等で保護者及び地域住民にも情報発信し、日常生活における安全な行動の仕方を共有していく。	B	【達成状況】 保護者 97.2% 地域住民 100.0% ・ いずれも、目標を上回った。 【次年度の方針】 ・ 今後も、日常生活や学校行事等における様々な場面で、感染症や災害・不審者等による危機を想定して対策を講じ、児童はもちろん、来校した保護者・地域住民等のすべての関係者の安全確保を優先させていく。
A25 学校は、学習に必要な ICT 機器や図書等を整えている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 90%以上	・Chromebook を児童が効果的に授業で活用できるよう、校内研修等を通じて教師自身の ICT 活用力の向上に努める。 ・授業において、学習のねらいを達成させるために教師が効果的に機器を用いることで、課題解決に ICT 機器等を活用しようとする児童の意欲を高める。 ・市立図書館とも連携し、授業内容との関連に配慮した教育図書の整備充実等、学校図書館の環境整備に努める。	B	【達成状況】 児童 95.6% 教職員 100.0% ・ いずれも、目標を上回った。 【次年度の方針】 ・ どの学年も、発達段階に応じて効果的に端末を活用する技能が向上しているので、今後も工夫しながら指導を継続する。また、市立図書館とも一層連携を深め、学習に必要な図書を確保できるようにする。

本校の特色・課題等	B 1 児童は、周囲の人に感謝の気持ちをもって生活している。 【数値指標】 学校独自アンケート 「児童は、お世話になった人に進んで感謝の気持ちを伝えている。」 ⇒児童・教職員・保護者・地域の肯定的回答 90%以上	・「感謝の気持ちをもつ子は、高い自己肯定感を有する」という理念の下、様々な人々の協力によって自分たちの安全で快適な学校生活が維持されていることに気付かせ、周囲の人や物に対しての感謝の気持ちを培う活動を、家庭と連携して工夫して行う。 ・帰りの会等で、児童同士が相互に認め合って感謝を述べ合う場を日常的に設定する。また、教職員が児童のよい行いに気付いた際には積極的に感謝の言葉を述べ、範を示す。	B 【達成状況】 児童 98.5% 保護者 88.6% 教職員 100.0% 地域住民 100.0% ・ いずれも、目標を上回った。 【次年度の方針】 ・ 児童は周囲の人々への感謝の気持ちをもっているが、それを保護者に伝える機会が少ないので、各教科の内容とも関連させながら、児童が感謝の気持ちを直接伝えられる場を設定する。
	B 2 児童は、学習することの意義を理解して学習に取り組んでいる。 【数値指標】 学校独自アンケート 「児童は、学習したことは自分に役立つと考えている。」 ⇒児童・保護者の肯定的回答 90%以上	・授業での学習の振り返りを重視し、児童が自分自身の成長や学習の有用性を実感できる指導過程を工夫することで、主体的に学習に取り組もうとする態度を育てる。 ・Chromebook を活用した授業や外国語活動・外国語科の授業を保護者に公開し、今日的な学校教育に対する保護者の理解の深化を図る。	B 【達成状況】 児童 98.5% 保護者 76.2% ・ 保護者の回答が、目標を下回った。 【次年度の方針】 ・ 授業では、児童が自分の成長や学習の有用性を実感できる指導過程を工夫する。また、連絡帳や個人面談・学級懇談などで、そうした児童の様子を保護者に伝えるようにする。
	B 3 学校と家庭とが連携し、基本的な家庭学習の習慣が育成されている。 【数値指標】 学校独自アンケート 「児童は、基本的な家庭学習の習慣が身に付いている。」 ⇒児童・保護者の肯定的回答 90%以上	・家庭学習スタンダードを活用し、家庭と連携しながら家庭学習を奨励する。家庭学習強化週間を設け、児童への具体的な学習内容の指導だけでなく、児童の意欲を高め望ましい学習習慣を身に付けるために有効な関わり方等についても、保護者に分かりやすく紹介する。 ・児童の学習状況を踏まえた課題を与えるなど、家庭学習を効果的に進められるような学習環境づくりを進める。	B 【達成状況】 児童 91.2% 保護者 75.7% ・ 保護者の回答が、目標を下回った。 【次年度の方針】 ・ 「学習と生活のアンケート」によれば、ほとんどの児童は、学年ごとの家庭学習時間の目標を達成している。そうした状況を保護者に伝えとともに、放課後の時間の使い方等についても指導するなどして、進んで家庭学習に取り組めるよう、児童の意識を高めるための工夫を行う。
	B 4 児童は、自分のよいところに自信をもち、自己肯定感をもち生活している。 【数値指標】 学校独自アンケート 「児童は、自分のよさに自信をもって生活している。」 ⇒児童・保護者の肯定的回答 90%以上	・授業や活動時の振り返り活動を重視し、児童が発揮したよさや、努力したこと、自分自身の成長を自覚できるような自己評価・相互評価の場を設ける。 ・児童の自尊感情を高めるために、結果だけではなく成長のプロセスを称賛する場を意識して多く設ける。その様子を保護者にも伝え、保護者からも認め励ましていただくよう協力を仰ぐ。	B 【達成状況】 児童 87.5% 保護者 82.4% ・ いずれも、目標を下回った。 【次年度の方針】 ・ 教職員が見取った児童のよさを積極的に本人に伝えたり、児童同士が互いのよさを認め合う場を毎日の帰りの会などで設定したりして、児童が自分のよいところを自覚できる機会を数多く設ける。

B5 児童は、人間関係や学校生活の秩序を維持するための基本的生活習慣を身に付けている。 【数値指標】 学校独自アンケート 「児童は、脱いだ靴をそろえたり、マナー3か条を実践したりするなど、学校のルールを守っている。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答90%以上	・落ち着いて生活したり、他者を大切に して互いに気持ちよく活動したりできる ためには、各自が学校のルールを守る ことが大切であることを繰り返し指導 する。 ・児童指導主任や生活当番を中心に、児童 の様子で気がかりなことがあった場 合には全教職員で共有し、直ちに解決に 取り組む。 ・学校からの情報発信により学校での取 組を家庭や地域と共有することで、基本 的生活習慣の更なる定着を目指すとも に、児童のマナーアップへの協力を依頼 する。	B 【達成状況】 児童 96.3% 教職員 100.0% ・ いずれも、目標を上回った。 【次年度の方針】 ・ 今後も引き続き、児童がマナー3か条や 学校のルールを意識しながら学校生活の 秩序を維持できるよう、児童の頑張りを 認めたり必要に応じて適切な指導を行っ たりしていく。
---	---	--

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ※ 昨年度までは、保護者からの回答率は95%を超えていたが、今年度はシステムの変更の影響からか、70%にとどまった。そのため、昨年の数値と単純に比較することには難しさもあるが、便宜上評価を行った。
- ・ 評価に関する数値的指標は30項目中、20項目で目標を達成した。項目によっては昨年度よりも目標値を高くした（85%→90%）ため、達成項目数は昨年を下回った。児童への設問では、21項目中19項目で肯定的回答が市の平均を上回っており、本校児童は、学校の教育活動にうまく適応しているものと考えられる。
 - ・ 「思いやりの心」「きまりの遵守」「不登校対策」「活気ある学校」「分かりやすくきめ細やかな指導」に関しては、教職員・保護者・地域住民・児童のいずれも高い肯定的回答率であり、落ち着いた生活の様子が高く評価されている。
 - 「小中一貫教育」については、保護者や児童の肯定的回答率が昨年や市を大きく下回った。地域ぐるみの挨拶運動などの具体的交流については、感染症の流行状況を鑑み中止にしたものがあつたことも、理由の一つに挙げられよう。地域学校園で連携して取り組んでいることについて、保護者や児童に一層周知していきたい。次年度は、中学校教諭の専門的支援を受けながらの教科担任制の取組も始まることから、児童にとっても更に実感としての理解が深まることが期待される。
 - ・ 「宇都宮の良さ」については、児童と保護者のとらえ方に、大きな差がある。家庭での話題に上るよう話合いの場を設定し、両者の溝を埋める必要もある。また、「一人一台端末の持ち帰りや授業での活用」についても、保護者への説明が十分ではなかったようなので、今後の伝え方を十分工夫していく必要もある。
 - ・ 「いじめ対策」に関しての保護者の肯定的回答は昨年を4ポイント下回った。児童の肯定的回答は昨年同様で98.5%であるため、学校としての取組に大きな課題は見当たらないようにも感じられるが、さらに保護者に対して適時性のある丁寧な説明を行う必要がある。
 - ・ 「家庭学習の習慣化」に関しては、保護者の肯定的回答が昨年を8ポイント下回った。学校としての取組を広報するだけでなく、保護者からの意見等も積極的に収集しながら、児童や教職員との意識の相違の原因を探り、改善策を考えたい。

7 学校関係者評価

- ・ 「夢や目標に向かってあきらめずに取り組む児童の育成」のためには、児童を認め励ます教育の一層の充実が望まれる。また、小さなことでよいので、児童が目標を立てて達成のために努力する機会を設定し、成就感を味わわせることが必要であろう。そうした経験を積むことで、児童は「やればできる自分」に自信をもち、さらに高い目標に向かって努力しようとする意欲を育むことができると考えられる。そうした児童の姿を目にすることで、保護者の意識も変容するのではないか。
- ・ 「いじめ対策」については、些細だと思われることでも、家庭への確実な学校からの情報提供と児童や保護者に寄り添う指導の徹底により、保護者の不安を払拭することができると考えられる。また、保護者が児童の交友関係等で不安を感じた際に、学校にいつでも相談できる体制を整え、周知し活用するシステムを確立することも有効ではないか。
- ・ 「家庭学習の習慣化」については、学習時間や内容等の結果だけでなく、取り掛かるまでの保護者からの声掛けの頻度等も保護者が課題としてとらえているところだと思われる。家庭での実態把握に努め、対応策を講じる必要があるのではないか。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・ 本校児童は、日頃より家族はもちろん地域や周囲の人々に温かく見守られているため、素直で明るくのびのびとしている。また、小規模校のよさをいかした充実した異学年交流、ぽぶら活動・プロジェクト活動（児童会活動）の実施による児童の自主性・主体性を重んじた活動、一人一人が自分の思いを発信する機会の確保等により、豊かな人間性をもった実践力のある児童の育成を目指した教育活動が展開されている。次年度も本校の特色を十分生かしつつ、本校の取組や実施状況を家庭や地域に丁寧に説明することで協力をお願いし、教育目標の実現に努めたい。
- 次年度は高学年における教科担任制実施のモデル校として、地域学校園の協力を得ながら教師の専門性をいかした授業を実践する。それにより、教職員の指導力を一層向上させるとともに、児童の学習意欲を喚起し学力の確実な定着を目指す。
- ・ 今年度も感染症の影響を受けているため、本校の特色の一つである「家庭・地域との連携・協働」の実現に大変困難を感じている。様々な人々との交流により児童の豊かな心の育成を図るため、次年度も感染症対策を十分講じながらも実施可能なことを精査しながら取り組む必要がある。